

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
FMD News Vol.38をお届けいたします。



12月のTOPICS

■無症候性成人における血管内皮機能障害と心血管リスクの増加との関連

海外でのFMDの論文発表は、日本の研究者によるものが主流ですが、そんな中、既に100台以上のユネクスイーエフが稼働しております。お隣、中国の研究者によるユネクスイーエフを使用した発表がございましたのでご紹介いたします。

血管内皮機能障害は心血管予防の予知指標として注目されていますが、心血管疾患(CVD)のない無症候性成人における内皮機能障害とCVDリスクとの関連性についてはほとんど検討されていません。そこで本研究では、中国広西チワン族自治区柳州のCVDのない無症候性成人680名(30~74歳)を対象にFMDとCVDリスクとの関連について横断研究を実施した。なお、10年間のCVDリスクはFraminghamリスクスコアを用いて推定した。

FMDを高FMD($\geq 10\%$)、中等度FMD($\geq 6\%$ および $< 10\%$)、低FMD($< 6\%$)と分類し、ロジスティック回帰分析を用いて分析した結果、低FMDは、推定10年間のCVDリスクの上昇と有意($p = 0.03$)に関連し、高FMDに対する推定10年間のCVDリスクのオッズ比は2.81(95%CI:1.21-6.53)であった。また、FMDの四分位数における第一四分位数(6.3%)と第三四分位数(11.5%)を比較した場合のオッズ比は1.51(1.03-2.20)であった。

サブグループ解析の結果、年齢(60才以上)、女性、非喫煙、正常血糖、 $CRP \geq (10\text{mg/L})$ 、 $eGFR < 106(\text{mL/分}/1.73\text{m}^2)$ の被検者において、FMDの低下と推定10年間のCVDリスクとの間に有意な関連が見られた。FMDの四分位数における第一四分位数(6.3%)と第三四分位数(11.5%)を比較した場合のそれぞれのオッズ比は、年齢60才以上群で2.77(95%CI:1.54-5.00)、女性で1.77(95%CI:1.16-2.70)、非喫煙群で1.59(95%CI:1.08-2.35)、正常血糖群で1.59(95%CI:1.04-2.44)、 $CRP \geq 10(\text{mg/L})$ 群で2.03(95%CI:1.19-3.48)、 $eGFR < 106(\text{mL/分}/1.73\text{m}^2)$ 群で1.85(95%CI:1.12-3.06)であった。

この研究では血管内皮機能障害は、無症候性成人におけるCVDリスクの増加と関連しており、特に高い心血管リスクを有する対象において特に顕著であることからFMDは心血管リスクが高い無症候性成人における将来のイベント予防の為の良好な予後マーカーであると報告されています。

引用元：Biomed Res Int. 2018 Oct 2;2018:3104945.

■第16回日本機能性食品医用学会総会での展示のご案内

本展示会場では「FMD検査装置 ユネクスイーエフ」を展示いたします。
是非、ブースにお立ち寄りください。お待ちしております。

会期：2018年12月15日(土)・16日(日)

会場：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター